

開業医の研究 ～たかが突発、されど突発～

井上こどもクリニック

井 上 佳 也 (H1卒)



2008年にクリニックを開業して数年後、突発性発疹(Exanthema subitum: ES)の診療を通じて抱いた疑問から、「和文であれば容易だろう」と考え、論文執筆を志した。しかし、学術誌への投稿

には倫理審査が厳格に求められ、私自身の医療統計の知識も十分とは言えなかった。ひとりでは心許なく、友政剛先生(昭和51年入局)、田村一志先生(平成8年入局)、渡邊正之先生(平成7年入局)に共著をお願いすることとなった。ときに迷いながらも、約10年をかけて5編の原著論文と1編の総説を執筆した。以下に、その要旨を列挙する。

- ES発熱期の白血球数中央値は6000/ μ Lである。発熱を主訴に2歳以下のこどもが来院した際、末梢血液中白血球数が少ないほどESの可能性が高い。指先からの毛細管採血検査は、ESの予測精度を高めるうえで有用である。(外来小児科 2016; 19: 276-285)
- 毛細管採血検査で信頼性が高い項目は白血球数・CRP・MCV・MCHであり、誤差が大きい項目はHbや血小板数である。(外来小児科 2019; 55: 133-140)
- ESに伴う熱性けいれんは、家族歴があると発症しやすい。鉄欠乏性貧血は熱性けいれんの発症リスクを高めない。(日児誌 2021; 125: 883-891)
- 双生児や三つ子の組み合わせにおいて、ESの発症間隔は44日前後に集簇する。年長児が家庭内にいる場合、ESを早期に発症しやすい。(外来小児科 2022; 25: 434-440)
- ESの発症月齢は出生順によって異なり、第一子は17(12～23)か月、第二子以降は12(10～16)か月である。家庭内の年長児が主な感染源であることが示唆される。(日児誌 2023; 127: 692-700)
- ESの感染経路と臨床に関する知見を総括した。(日児誌 2024; 128: 1264-1273)

ESに関する研究は一段落したが、これらのデータが今後の研究の参考資料として役立つことを願っている。自験例による後ろ向き研究という形では取り組み

ず、特に興味深かったのは、ES発症の高年齢化現象である。1989年～1991年の調査では、0～2歳のES症例に占める0歳児の割合は91～92%であったが、1993年以降その割合は徐々に低下し、2022年には30%まで減少した[1, 2]。ESの原因ウイルスであるHHV-6BまたはHHV-7はいずれも感染後に体内に潜伏し、生涯にわたって共存するヘルペスウイルスである。ES発症の高年齢化の背景には何があるのか、また生涯にわたり共存するウイルスの感染時期の変化がその後に与える影響はないのか、今後の検討が望まれる。

個人的には、開業後に入会した日本外来小児科学会で、実地医療の現場から研究成果を発信しようとする先生方に出会えたことが、大きな刺激となった。その理念は、本学会設立に尽力された故・五十嵐正紘先生のご講演「実地と研究におけるエビデンスの役割」(<https://www.youtube.com/watch?v=MRdvPxFAQI9o>)からも強く感じ取ることができる。また、勤務医時代に、臨床上の疑問を構造化して論文化する方法を学ぶ機会を得ていたことが、現在の研究活動の基盤となった。丁寧なご指導をいただいた先生方、そして論文を世に出すために共に試行錯誤していた当時の仲間たちに、ここで心より感謝を申し上げたい。

最後に、近所にお住まいのN氏についても触れておきたい。N氏は群馬県10万分の1地質図の作成に関わり、ご自宅には石切断カッターと偏光顕微鏡を備えておられる。N氏は折に触れて、ご自身が執筆された論文や書籍を届けてくださり、私もそれに応えて、自著論文を届けるためにご自宅を訪ねるのが習慣となった。なかでも、妙義山域の火山層序と陥没構造に関する論文[3]には、深い感銘を受けた。ES研究を継続するうえでのモチベーションの一端になったことは間違いない。

参考文献

1. 絹巻 宏, 絹巻 暁子. 突発性発疹の高年齢化が進行している. 外来小児科 2013; 16: 312-317.
2. 感染症発生動向調査事業年報. 国立感染症研究所. <https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/annual/2022/archive/index.html> (2025年5月15日現在)
3. 妙義団体研究グループ. 群馬県西部の妙義山域における後期中新世火山層序と陥没構造. 地球科学 2020; 74: 21-38. https://www.jstage.jst.go.jp/article/agcjchikyukagaku/74/1/74_21/_pdf/-char/ja (2025年5月15日現在)